

新発表

肥大性にすぐれ、食味のよい秋どりダイコン！

タキイ交配 ダイコン

あき つばさ 秋の翼



タキイ茨城研究農場
たなか ひろし
田中 寛

いよいよ年内どりダイコンも
パワーアップ！



これまで、ダイコンの年内どりは「適期まぎ」と呼ばれ、作りやすい作型でしたが、近年は不安定な気象条件によって、安定した収量を確保するのが難しくなっています。しかし、業務加工向けなどの契約栽培では、特に安定した収量が求められ、青果出荷や直売所などでは収量性もさることながら、「肌のきれいさや食味のよさ」といった品質も求められています。

そのような状況の中、作りやすさと食味も含めた高い品質を併せもち、プロの生産者から家庭菜園まで幅広く利用できる品種を目標に育成を行い、数年間の試作でその特性を確認することができたため、このたびタキイ交配「秋の翼」として新発表することになりました。その特性をよく知っていただき、ぜひ栽培していただきたいと思えます。



→
「秋の翼」の調理は、特に煮物にするとやわらかく甘みがあり、口当たりもよい。

「秋の翼」栽培適期表

月	7	8	9	10	11	12
冷涼地	●	●	■	■		
中間地		●	●	■	■	
暖地			●	●	■	■



← J A 島原雲仙管内島原地区での
↓ 検討会の様子。



【産地事例】

「J A 島原雲仙 島原地区」

肥沃な土壌と豊かな水資源により、畑作が盛んな産地です。当地では2年前より「秋の翼」の試作を行った結果、肥大性や裂根の少なさが高く評価され、平成26年度から導入予定となっています。

「J A 兵庫西 御津地区」

秋冬～春にかけてダイコン栽培が盛んな砂地産地です。「秋の翼」は11～12月どりで秀品率と肌ツヤを高く評価していただき、平成25年度より導入となりました。

業務加工向けとして「夏の翼」からのリレー出荷

「夏の翼」と「秋の翼」は、両品種ともに肉質は緻密で比較的可たく、業務加工向けとしても評価が高い2品種です。「秋の翼」は中間・暖地では9月上中旬まき、11～12月どりが適します。「夏の翼」は耐暑性が必要な8月中旬～9月上中旬まき、10～11月どりが適しているため、2品種によるリレー出荷が可能になりました。

10～11月どり

夏の翼

11～12月どり

秋の翼

秋 冬 どり

ダイコンの主要土壌病害である萎黄病に対しては、程度の耐病性のため、激発圃場での栽培は避けてください。

④ 萎黄病激発圃場は避ける

極端な過湿条件下では円形褐斑病など、肌の障害発生が懸念されるため、排水の悪い圃場では高畝にします。また、堆肥などの有機物を施用し、保水・排水性のよい土をつくることで良品生産のうえで重要になります。

③ 排水のよい圃場で栽培する

まきは避けず。一方で、播種期が遅くなると短根になる場合があること、葉部や首部の耐寒性はあまり強くないので、収穫は年内どりが主体となるように播種期を設定してください。

② 肥料切れしない設計を

肥大性にはすぐれませんが、生育後半に肥効が弱くと茎葉病害の発生につながるため、肥料が切れしない施肥設計にします。元肥を主体としますが、生育、播種時期に応じて最終間引き直後に追肥を行います。

⑤ 収穫も適期に

生育後半は特に肥大がよくなるため、収穫が遅れると望んだサイズでの出荷が困難になります。よって適期収穫を心掛けるとともに計画的な播種を行いましょう。

品種特性

① 肥大がよく、作りやすい

草勢は比較のおとなしく、肥大性にすぐれるため栽培しやすい品種です。また、抽根部が短めなので、曲がり根の発生が少なくなります。さらにその

② 品質がよい

肉質は緻密で食味がよい品種です。青首は比較的薄く、肌が美しいため市

場性の高さも向上しています。

③ 業務加工向けにも適する

収穫サイズが大きくなっても内部品質の劣化（ス入り）が少なく、肉質が比較的可たいため、刺身のつまや漬物、おろしなどの業務加工用にも適します。

栽培ポイント

① 播種は適期に

高温期の栽培では草勢が強くなり、根形が乱れる場合があるので無理な早

ダイコン「秋の翼」栽培特性メモ

最適播種期（産地レベル）	9月上中旬（中間・暖地）
前後の可能播種期（菜園レベル）	8月下旬～9月下旬
病害への強さ	萎黄病耐病性（中程度）
基本の施肥設計（10a当たり）	元肥：N：P：Kすべて10～15kg 追肥：最終間引き直後にN成分2～3kg
播種基準（畝幅・条数・株間）	畝幅100～120cm、2条植え、株間25cm
栽培重要ポイント	播種と収穫は適期に行う。